

第三期永平寺町子ども・子育て支援事業計画（案）に関するパブリックコメント（意見募集手続）の結果について

◆件名

第三期永平寺町子ども・子育て支援事業計画（案）

◆募集方法

町広報紙およびホームページにて実施予告を行ったうえで、資料を本庁および永平寺支所、上志比支所で閲覧できるようにし、意見を募集しました。

◆意見の募集期間

令和7年1月16日（木曜日）～令和7年1月30日（木曜日）

◆提出件数

2件

◆意見の概要 【別紙1】

- ①学校図書館の充実（専門性が高い学校司書の配置）
- ②様々な支援事業の周知方法（事業の内容により効率的な周知方法の確立）

◆町の考え方

- ①いただいたご意見を参考に、関係機関と協議・検討しながら今後の施策の参考とさせていただきます。
- ②いただいたご意見は今後の施策の参考とさせていただきます。

◆本計画に関する修正の有無

- ①無
- ②無

<お問合せ>

○永平寺町子育て支援課 0776-61-7250

## 【別紙1】

### ① 学校図書館の充実

永平寺町在住で、福井市の学校司書をしています。学校図書館の充実について、意見を送らせていただきます。

すでに、町立図書館等と連携した、ブックトークや年一回の連絡会は実施されているようですが、それだけでは支援が不十分だと思います。

おそらく学校現場で図書の管理をされているのは、司書教諭の先生だと推察されますが、先生の仕事は多岐に渡り、非常に多忙であるため、司書教諭というポストにはあるものの、

実際に図書室を充実させることや、その資料を活用させることまではとても手が回らない、というのが現状だと思います。

文部科学省の第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」によると、各学校に学校司書の配置拡充を図るよう示されていますが、町内の小中学校に専属の学校司書を配置する予定はないのでしょうか？

福井市では、15年程前からすべての小中学校に学校司書を配置しています(1人3校ほどを、日替わりで兼務)。私は10年程この仕事をしていますが、学習に即した図書の提供や読書推進をするためには、本の選書、受け入れ、管理、学習内容の把握や、子どものニーズの把握など、様々な専門性が必要です。

福井市でも、公共図書館と連携した選書会などを行っており、支援していただいているのですが、学校現場特有のニーズもあるため、公共図書館の介入のみでは、読書推進や学習への応用までは難しいと思います。

情報があふれる世の中において、読書を推進するというのは正直、ハードルが高いことではあります。しかし、だからこそ、すべての子どもが足を踏み入れる学校図書館において、その充実を図っていく必要があると考えております。

町内の小中学校における学校司書の配置を、ぜひ検討していただきたいです。

## ② 様々な支援事業の周知方法

2024年4月民間の有識者グループ「人口戦略会議」の分析発表の中で、「消滅可能性自治体」を脱却した自治体として評価を受けた239自治体の一つ宮城県大衡村の「子ども・子育て支援事業」に匹敵する計画（案）と評価させていただきます。大衡村の人口は、5,500人余り。当町の三分の一足らずの人口の村と比較した時、見えて来るのは、地域を巻き込んでの取組みに取組んできたか？という点。支援事業が使いやすいものか？等々挙げられます。

昨日、県が男性育休取得目標を85%と発表しました。当町の事業所形態が中小・個人経営に集中していて、男性育休取得は、かなり難しい状況と想像します。前出の大衡村では、当初から、県が現在取り組んでいる、ふく育さんの設置やベビーシッターの養成に取り組んでいた様です。きめ細かい支援事業でも、使われて成果につながります。使って欲しい人に適時に使ってもらう。広報や窓口での説明だけにとどまる事なく、より、効果的に知らせる事です。一案ですが、スマホからの申込みはもちろん、バースデーカードを送付する。と言うのは如何でしょうか？支援事業は、子どもの年齢によって、段階的に支援が変化すると思われるので、その時々を受けられる支援事業を知らせては？と考えました。

思い付くままに取り留めの無い事を書きましたが、当町より小さい村が子育て支援事業で成果をあげている！事に勇気を貰って取り組んでいただける事を期待して意見とさせていただきます。